

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成30年2月15日 (2018.2.15)

【公表番号】特表2016-508175(P2016-508175A)

【公表日】平成28年3月17日 (2016.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2016-016

【出願番号】特願2015-550495(P2015-550495)

【国際特許分類】

C 0 8 L 73/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/08 (2006.01)

C 0 8 G 67/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 73/00

C 0 8 L 23/08

C 0 8 G 67/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年12月26日 (2017.12.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

高圧フリーラジカル重合から形成される、エチレン系ポリマーを含む組成物であって、前記エチレン系ポリマーが、次の特性：

a) 前記ポリマーの重量に基づき、「0 より多く」10 重量%未満のCO（一酸化炭素）のCO含有量と、

b) 3 ~ 30 g / 10 分のメルトインデックス（I2）と、を有し、

前記エチレン系ポリマーが、単位で、次の関係：

$$T_m ( ) < 601.4 \times (g/cc \text{ 単位の密度}) - 447.8 ( )$$

を満たす融点Tmを有し、さらに

前記エチレン系ポリマーが、0.910 ~ 0.950 g / ccの密度を有する、組成物

。

【請求項 2】

前記エチレン系ポリマーが、単位で、次の関係：

$$T_m ( ) < 601.4 \times (g/cc \text{ 単位の密度}) - 449 ( )$$

を満たす融点を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記エチレン系ポリマーが、320 以下の温度にて、繊維引裂付着試験に合格する、ただし、前記繊維引裂付着試験が、501 b / 連クラフト紙上への前記エチレン系ポリマーの1ミル（0.0254 mm）の被覆を含む試験標本を用いて行われ、前記繊維引裂付着試験に合格するとは、前記エチレン系ポリマーの層と前記クラフト紙の表面との間の付着が、前記クラフト紙自体の内部繊維マトリックス付着よりも強い、または、前記クラフト紙の表面の5%以上が前記エチレン系ポリマーと共に裂ける付着よりも強いと同等であることを意味する、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 4】

前記エチレン系ポリマーが、101 ~ 113 の融点Tmを有する、請求項 1 ~ 3 の

いずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】

前記エチレン系ポリマーが、 $103 \sim 113$  の融点  $T_m$  を有する、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記エチレン系ポリマーが、 $102$  より高い融点  $T_m$  を有する、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記エチレン系ポリマーが、前記ポリマーの重量に基づき、 $3$  重量 % 以下の  $CO$  含有量を有する、請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 8】

前記エチレン系ポリマーが、 $13C$  NMR によって決定されたときに、 $1000$  炭素原子当たり  $0.5$  アミル基以上のアミル基レベルを有する、請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 9】

前記組成物が、第 2 のエチレン系ポリマーをさらに含む、請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

前記第 2 のエチレン系ポリマーが、LDPE、エチレン / アルファオレフィンコポリマー、またはそれらの組み合わせから選択される、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 10 のいずれか一項に記載の前記組成物から形成される少なくとも 1 つの構成要素を備える、物品。

【請求項 12】

前記物品が被覆基板である、請求項 10 に記載の物品。

【請求項 13】

前記物品が、押出コーティングまたは押出積層によって生成される、請求項 10 または請求項 11 に記載の物品。

【請求項 14】

前記エチレン系ポリマーが、重合形態で、唯一のモノマー種としてエチレンおよび  $CO$  を含む、請求項 1 ～ 請求項 10 のいずれかに記載の組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0149

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0149】

標本は、「 $24$  インチ  $\times$   $36$  インチ」の寸法に切断された。それぞれの試験標本には、 $2$  つの「 $X$  のそれぞれのライン上におよそ  $2$  インチである、 $X$  カット」が、試料の交差方向に作られた。それぞれの「 $X$  カット」は、それぞれの試験標本におけるポリマー被覆の端からおよそ  $6$  インチに作られた。「 $X$  カット」はポリマー被覆のみを貫通した。「 $X$  カット」の一部分のポリマーは、万能ナイフを使用して紙から部分的に分離された。離されたポリマーは、作業により手づかみされ、試験標本は作業のもう一方の手で押さえられた。ポリマーは、紙からゆっくりとおよそ  $1 \sim 2$  インチの距離だけ引っ張られた。このゆっくりとした引っ張りはおよそ  $5 \sim 10$  秒間かかる。「合格」値は、ポリマー層と紙表面との間の付着が、紙自体の内部繊維マトリックス付着よりも強い（または紙表面の  $5\%$  以上がポリマーと共に裂けた 付着よりも強い、あるいは同等であった）場合に記録された。「不合格」値は、ポリマー層が、紙繊維を伴わずにまたはほとんど伴わずに、紙表面から引っ張られた（または紙表面の  $5\%$  未満がポリマーと共に裂けた）場合に記録された。ポリマーと共に裂けた紙表面の百分率は、紙基板から除去されたポリマー被覆の合計面積

の視覚検査によって決定された。それぞれのポリマーには、1つの試験標本が試験され、2つの「Xカット」がそれぞれの試験標本において作られた。